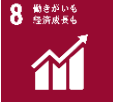


令和5年度 施策評価シート

施策の大綱	2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実	評価担当者
基本施策	(3) 高齢者の地域生活支援の充実	健康福祉部長 林 秀臣
目指す姿	高齢者が、必要な介護・福祉サービスを受けながら、住み慣れた地域で安心して暮らしています	
関連する分野別計画	亀山市高齢者福祉計画	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	   
SDGs推進の考察	生活支援体制の整備や介護予防に取り組むとともに、医師、看護師等のコメディカル、介護職による在宅医療・介護連携や認知症施策を推進するなどし、高齢者が地域で安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。また、サロン活動等で、仲間づくりや生きがいづくり、社会参加を進め、地域における見守りや支え合いの活動、シルバー人材センターを支援し、高齢者の就職機会の確保を図っている。

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策 の方向	事業名	上段:予算額	実績・成果等
		下段:決算額	
①	介護保険地域支援事業(総合事業)	24,720 18,501	介護予防・生活支援サービス事業と一般介護予防事業を実施し、高齢者が介護予防に取り組むことができ、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援した。
①	介護保険地域支援事業(任意事業)	23,031 18,407	家族介護支援事業や成年後見制度支援事業や認知症サポーターの養成等を実施し、在宅で支援を必要とする高齢者やその家族の負担を軽減することが出来た。
①	地域包括支援事業(社会保障充実分)	28,111 21,337	在宅医療と介護の連携提供体制の強化や、生活支援コーディネーターを配置し生活支援体制の整備、認知症施策を推進するなど、地域包括ケアシステムの推進に向けて取り組んだ。
②	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業	5,883 5,277	健康課題を把握するとともにハイリスク者を抽出し、医療専門職による個別支援やフレイル予防の普及啓発に取り組み、重症化予防や生活機能の改善、フレイル予防の意識づけを図ることができた。
③	団体支援事業(在宅高齢者介護支援事業)	1,979 1,969	21の老人クラブに補助を行い、高齢者の知識及び経験を生かした地域を豊かにする社会活動や生きがいと健康づくり活動等を促進することができた。
③	福祉事業(在宅高齢者介護支援事業)	2,777 2,673	1,535人の障がい者控除対象者認定を行うとともに、住宅修繕1件を行い、在宅高齢者の安全・安心な生活に寄与することができた。
③	給付事業(在宅高齢者介護支援事業)	1,537 1,412	敬老祝品を234人に支給し高齢者の長寿を祝福するとともに、21人(3月末時点)の賠償保険の契約者となり、1件の日常生活用具(電磁調理器)を給付するなど、介護者の負担軽減を図った。
③	高齢者タクシー料金助成事業	652 619	タクシー券を126人に交付し、対象者の外出の支援と社会参加の促進を図ることができた。
③	地域団体支援事業(シルバー人材センター)	11,400 11,400	シルバー人材センターに運営補助金を交付することで、高齢者の就業機会を提供し、生きがいの充実や健康の維持・増進を図ることができた。
③	害虫駆除対策費	679 504	条件に合致する依頼者世帯の蜂の巣の駆除・撤去をすべて実施した。
④	地域介護・福祉空間整備事業(国定額)	7,730 7,700	認知症高齢者グループホーム1施設へ補助を行い、防災体制の強化を図ることができた。

太字:主要事業

成果指標

指標		単位	現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	かめやまホームケアネット登録者数(累計)	人	130	R2	205	232			320
2	総合事業で高齢者に通いの場を提供する地域の団体等の数	団体	115	R2	102	103			120
3	認知症初期集中支援チームの高齢者及びその家族への支援件数	件	24	R2	52	51			50
4									
5									
6									
7									
8									

市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	高齢者が生きがいを持って安心して生活できる環境が整っている	重要度	1.24	1.40		1の設問については、重要度(+0.16)、満足度(+0.07)、2の設問についても重要度(+0.08)、満足度(+0.02)いずれも上昇している。特に1については全体の中でも比較的高い重要度である一方、満足度は低く、今後の一層の施策推進が求められる。
		満足度	▲ 0.53	▲0.46		
2	高齢者への介護サービスが充実している	重要度	1.34	1.42		
		満足度	▲ 0.05	▲0.03		
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				

施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 地域包括ケアシステムの推進	高齢者の在宅医療等のニーズに応じた医療・介護サービスを提供できる体制を確保できた。生活支援コーディネーターは、2名から1名に減り、体制整備に課題が生じた。
② 介護予防の推進	高齢者が気軽に参加できる活動の場づくりを進め、地域における自助・互助・共助の活動を支援した。また、保健事業と介護予防の一体的な取り組みを進めることができた。
③ 高齢者の生活と生きがいづくりの支援	サロン活動を通じた社会参加や地域における見守り活動等を支援し、介護用品の給付等、高齢者の生活支援を図った。シルバー人材センターを通じた就労機会を提供した。
④ 認知症高齢者等対策の推進	認知症に関する知識の普及啓発と早期発見・治療の重要性について周知した。今後も地域での認知症への理解促進を図りつつ、認知症の人や家族を支援していく。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

地域包括ケアシステムの推進については、亀山医師会、市立医療センター等医療職や地域包括支援センター等の介護職による多職種連携により、在宅医療連携や認知症本人や家族へ支援を進め、講演会の開催や広報等で市民理解や周知を図ることができた。介護予防の推進については、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業について、糖尿病性腎症重症化予防や重複多剤服用対象者通知事業などのハイレスクアプローチ、フレイル予防の普及啓発、健康教育・健康相談等のポピュレーションアプローチに取り組み、高齢者の健康増進を図った。高齢者の生活と生きがいづくりの支援については、高齢者の相談等に対し、市内3か所の包括支援センター(基幹1、地域2)を窓口として、重層的支援体制により複合的な課題を抱える個別ケースの対応強化を図った。一方、新型コロナの5類移行を受けて、サロンの開催回数等は回復しつつあるものの、シルバー人材センターやサロン活動、老人クラブなど組織や会員の減少が続いており、引き続きの課題となっている。認知症高齢者等対策の推進については、認知症サポーターの継続的な養成による市民の認知症への理解を広げるとともに、認知症初期集中支援チームを中心に認知症の高齢者とその家族を支援できた。更に成年後見制度の体制整備が図れたことから、認知症施策の強化につなげた。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

高齢者の増加や多様化・複雑化する相談内容に対応するため、引き続き地域包括支援センターと連携し、地域包括ケアシステムの深化・推進の取り組みを進める。保健事業と介護予防の一体的実施について、成果の可視化を検討しつつ、ハイレスクアプローチのメニュー拡大や国保データベースの更なる活用を図る。シルバー人材センターと連携し、健康マイレージアプリの活用促進や、地域のサロンや老人クラブの活動への継続支援により、高齢者の活動促進に取り組む。認知症高齢者の権利擁護については、市長申立等の支援を行いつつ成年後見サポート事業の活用を進め、その制度の周知を徹底する。